

「台湾有事」を起こさせない・沖縄対話プロジェクト  
発足集会



2022年10月15日(土)

沖縄市民会館

主催：「台湾有事」を起こさせない・沖縄対話プロジェクト  
後援：沖縄タイムス社、琉球新報社

## <本日のプログラム>

13:00 会場 13:30開会 16:30閉会

司会：与那覇恵子（沖縄対話プロジェクト共同代表、元名桜大学教授）

開会挨拶：対話プロジェクトの意味とは

岡本厚（沖縄対話プロジェクト共同代表、前岩波書店社長）

基調講演：中国とどう向き合うか

丹羽宇一郎（日中友好協会会長、元駐中国日本大使、元伊藤忠商事会長）

ファクト共有のための講演：

1, 「台湾有事」はどう起こされるか

岡田充（ジャーナリスト）

2, 台湾の世論は「台湾有事」をどう論じているか

本田善彦（ジャーナリスト、台湾在住）

（休憩）

台湾からのメッセージ（録画）

林彦宏（Yenhung LIN）（国防安全研究院助理研究員）

何思慎（天主教輔仁大学教授）

沖縄からの訴え：「台湾有事」「南西諸島有事」を起こさせないために

1, 宮城弘岩（沖縄物産企業連合会長）

2, 元山仁士郎（元「辺野古」県民投票の会」代表）

3, 玉城愛（元オール沖縄会議代表）

対話の灯火を掲げよう：世界の現場から沖縄・台湾へ

谷山博史（沖縄対話プロジェクト呼びかけ人、日本国際ボランティアセンター  
前代表理事）

閉会挨拶：新川明（元沖縄タイムス社長）

## 『台湾有事』を起こさせない・沖縄対話プロジェクト』とは？

### なぜこの企画を始めたか？

ウクライナ戦争以降、米中対立を背景に「台湾有事」を煽る言説が過熱している。中国の台湾侵攻があたかも前提であるかのように、先島から奄美、九州南部にかけて日米の基地建設、軍備強化が急速に進んでいる。しかし、実際に戦争になった場合に戦場となり壊滅的な被害を被るのは、島である沖縄と台湾である。もちろん、日本本土も中国大陸も無傷どころか大きな損害を被ることになるだろう。

経済的な力と同時に軍事力を高める中国に対しては、ハイレベルの交流と対話、外交を進めることこそ有事を防ぐ道である。しかし現状は日本・台湾両政府とも、対話、外交よりも、米国に依存した軍事的な対処を優先させているようだ。このままでは、軍事力以外の選択肢が狭められ、そこに暮らしている住民は避難と動員の対象となってしまう。それは、沖縄住民にとっては、77年前の「沖縄戦」の再現に他ならない。日本本土の「捨て石」となり、住民4人に1人が犠牲になった戦争の再現は、決して起こさせはならない。「捨て石」とされた沖縄住民にとってだけでなく、「捨て石」にした本土住民にとっても、二度と沖縄を戦場にさせないことが課せられた責任である。

外交はこの地域の各政府が行うことであり、私たちはそれを強く要請していく。同時に、民間である私たちが行いたいのは、沖縄の人びとと台湾の人びとを対話でつなぎ、沖縄と日本（本土）、沖縄と中国、沖縄と米国の市民を対話でつなぎ、交流し、「共通の利益」を見いだしていくことだ。「共通の利益」とは、この地域で殺し、殺されることを絶対に防ぐことである。

まずは沖縄と台湾の市民が対話を重ね、絶対に「台湾有事」「沖縄有事」を起こさせない、しかも緊張を高める一方の「抑止と対処」という軍事一辺倒の方法に依存しないという声を一つにしていくことから始めたい。

### 時代の認識とは？

2021年8月のアフガニスタンから米軍の完全撤退によってアメリカ軍事戦略は中東での対テロ戦争から対中国の封じ込め戦略に本格的にシフトした。さらにロシアのウクライナ侵攻以降、日米両政府は、「台湾有事」（中国の台湾への武力行使）に対処するためとして、台湾、南西諸島の軍事力強化を急速に進めている。2022年5月の日米首脳会談では対中国の抑止力・対処力の強化を表明。日米同盟は事実上対中国の軍事同盟として機能することになった。

台湾では「一つの中国」の枠組み拒否を志向する蔡英文政権の発足後、台湾海峡兩岸の（公的・準公的）対話は断絶状態に陥った。さらに「一つの中国」枠組みを崩すかのように中国（大陸）を挑発する言動を繰り返す米国政府と、これに対抗する大陸側の台湾への軍事的な圧力も強まっている。

米中両政府の軍事的緊張が高まるなか双方が抑止力と対処力を高め軍事的な挑発と牽制の応酬に陥る事態となっている。近い将来米軍と中国軍が一直触発の状態から衝突に発展する危険性も否定できない。そうなれば、台湾はもちろんのこと日本も戦争に巻き込まれる。日本は存立危機事態が適用され集団的自衛権を発動することになる。

もしこの地域で戦争になれば、台湾、沖縄はもちろん、日本、中国を含む東アジア全体が壊滅的な被害を被ることになる。ヨーロッパと違い、台湾であれ沖縄であれ島であって、住民が陸伝いに避難することは到底不可能である。被害はさらに悲惨なものになるだろう。台湾においては民間防衛に関するハンドブックなるものがつくられ、日本・沖縄でも国民保護法に基づく国民保護計画の作成が進んでいる。しかしいずれの措置も戦争をすることを前提に作られるものであり、戦争が起こった場合のリアリティに欠けている。百害あって一利もない。戦争を起こさせないことこそが市民にとっては最大の国民保護である。

### 目標は？

「台湾有事」「沖縄有事」を起こさせないという「あらゆる政治的な立場を超えた」共通意識を醸成し、広げていく。

### 方法は？

政治的な立場や意見の違いはあっても「台湾有事」「沖縄有事」を起こさせてはならないと考える学者、ジャーナリスト、企業人、市民が様々な対話セッションで対話する。対話とは意見を異にする者同士が、(一個の人間として相手に向き合い)、相手の意見を尊重しつつ相互に共通点を見出し、意見の違いを乗り越えていく作業である。相手の考えを理解し、自らの考えをも理解してもらう相互作用を通して、新たな気づきが生まれるプロセスでもある。小異を捨て大同に就くの「大同」とは戦争を起こさせないという一点に尽きる。

戦争と暴力の反対語は平和ではなく対話である。平和はという言葉は「平和を守るための戦争」「平和を維持するための武力」「正義のための戦争」といった独善的な政策に容易に絡めとられる。対話の必要性を訴え続け、市民自らが対話を実践することで政治指導者に対話を促すことも必要である。

### これからの計画は？

〈シンポジウム〉

- ① 沖縄と台湾でそれぞれ異なる立場、背景をもった人たち2,3人ずつに登壇してもらう。初めに戦争を起こさせないためにどうしたらよいかを発言し、その後全員の意見を聞いたうえでの感想を述べあう。総括として共通のポイント、並びにすり合わせるべき意見の違いを明確にする。
- ② 登壇者は沖縄、台湾ともに有識者、ジャーナリスト、活動家、市民、学生など様々な立場のひとであるが、沖縄では例えば辺野古新基地建設を反対する立場と容認する立場のど

ちらも排除せず敢えて同席してもらおう。また台湾では「一つの中国」に批判的な与党民進党系の立場と「一つの中国」を認める野党国民党系の立場も排除せず敢えて同席してもらおう。

③一年のプロジェクト期間中に3回開催する。2回目以降は冒頭で前回及び前回までの議論の論点を共有する。およその開催時期は、

一回目：2023年2月12日（沖縄タイムスホール）

二回目：2021年4月又は5月（未定）

三回目：2023年7月又は8月（未定）

#### 〈総括集会〉

3回のシンポジウムのまとめの会。この会の目的は意見の違いは残したうえで、3回のシンポジウムを通して「台湾有事を起こさせない」「沖縄有事を起こさせない」ために最も重要かつ共通のメッセージを発することである。このメッセージを対話プロジェクトの総括アピールとしたい。このアピールをいかに沖縄、台湾、日本、アメリカ、中国に広げていくかについての方法についても問題提起する。

開催時期は2023年9月をめどとする。

#### 〈沖縄・台湾サブ企画〉

プロジェクト期間中に様々な対話自主企画が開催される。規模や形式は問わないが、異なる立場の人たちが対話によってどのような気づきがあったのか、共通の認識は得られたのかが重要となる。沖縄対話プロジェクトの関係者が企画するものもあれば、プロジェクトの趣旨に賛同する人たちが自主的に企画するものもある。メインのシンポジウムや総括集会で報告し「対話」運動の広がりを確認する。

保守も革新も

老いも若きも

国籍も関係ない

## 登壇者のプロフィール

与那覇恵子（よなは・けいこ）

沖縄対話プロジェクト共同代表。1953年生れ。琉球大学卒・大阪大学博士課程修了。2019年公立大学名桜大学を定年退官、現在は非常勤で勤務、通訳・翻訳を副業とする。著書に、詩集「沖縄から見えるもの」（第33回福田正夫賞）「沖縄の怒り」「終わらない占領との決別（共著）」Rethinking the San Francisco System in Indo-Pacific Security(Palgrave Macmillan)など。

岡本厚（おかもと・あつし）

沖縄対話プロジェクト共同代表。1954年生れ。早稲田大学卒。岩波書店入社。1996年「世界」編集長（～2012年）。編集長として陳水扁総統、馬英九総統に単独インタビュー。「沖縄『集団自決』裁判（大江・岩波裁判）」の岩波書店担当者（2005～11年）。2013年岩波書店社長（～2021年）

丹羽宇一郎（にわ・ういちろう）

1939年生れ。名古屋大学卒。1998年伊藤忠商事社長、2004年会長。2010年民間出身で初めての駐中国大使（～2012年）。2015年から日中友好協会会長。一般社団法人グローバルビジネス学会名誉会長も務める。著書に『中国の大問題』『習近平はいったい何を考えているのか』『戦争の大問題』など。

岡田充（おかだ・たかし）

ジャーナリスト 1948年生まれ。1972年共同通信社入社。香港、モスクワ、台北支局長、編集委員を歴任。拓殖大客員教授、桜美林大非常勤講師を経て2008～22年まで共同通信客員論説委員。主著に「中国と台湾 対立と共存の兩岸関係論」など。21世紀中国総研で「海峡兩岸論」を連載中。[http://www.21ccs.jp/ryougan\\_okada/index.html](http://www.21ccs.jp/ryougan_okada/index.html)

本田善彦（ほんだ・よしひこ）

1966年、神戸市生まれ。1991年から台北市在住。中国広播公司の国際放送「自由中国之声」記者兼アナウンサーなどを経てフリーに。著書は『台湾総統列伝』『日中台視えざる絆』『人民解放軍は何をを考えているのか』『台湾と尖閣ナショナリズム』など。

宮城弘岩（みやぎ・ひろいわ）

1940年生れ。早稲田大学、国立台湾大学卒業。沖縄県工業連合会専務理事、(株)沖縄県物産公社専務、沖縄県商工労働部長を経て、2000年に株式会社沖縄物産企業連合設立、現在沖

縄物産企業連合取締役会長。アジア・沖縄経済研究所代表。著書などに、「沖縄の物産革命」、「沖縄の自由貿易論」、「ポスト香港と沖縄」、「沖縄を越えるもの」(共著)、『『沖縄発の時代』、その経済原論を探る』、「中国近代市長の形成」など、沖縄振興に関する論文多数。

元山仁士郎 (もとやま・じんしろう)

1991年、沖縄・宜野湾市生まれ。「辺野古」県民投票の会元代表。現在、一橋大学大学院法学研究科博士課程。共著書に『辺野古に替わる豊かな選択肢』。SEALDs、SEALDs RYUKYUの立ち上げ/中心メンバー。今年5月には、沖縄の「復帰50年」に際し、首相官邸前などで辺野古新基地建設の断念を求め再びハンガーストライキを行った。

玉城愛 (たまき・あい)

1994年生まれ。元オール沖縄会議共同代表。1980年代の沖縄女性の社会運動史を研究。

谷山博史 (たにやま・ひろし)

日本国際ボランティアセンター(JVC)前代表理事、現顧問。国際協力NGOセンター(JANIC)元理事長。現在は市民社会スペースアクションネットワーク(NANCiS)、土地規制法廃止アクション事務局などで活動。名護市在住。著書に『『積極的平和主義』は紛争地に何をもたらすか?!』(編著、合同出版、2015年)、「非戦・対話・NGO」(編著、新評論、2017年)、「平和学から世界を見る」(共著、成文堂、2020年)など多数。

新川明 (あらかわ・あきら)

1931年生れ。ジャーナリスト。琉球大学中退後、沖縄タイムス入社。編集局長、社長、会長を歴任。1978年『新南島風土記』で毎日出版文化賞受賞。著書に『反国家の凶区』『沖縄・統合と反逆』『琉球処分以後』など。

## 呼びかけ人からのメッセージ

(9月30日、記者会見での発言から)

### 岡本厚（共同代表）

かつて「大江・岩波訴訟」の担当者として、沖縄戦の実相を学んだ。「台湾有事」が起これば沖縄戦（捨て石作戦）の再現になる。日本の政治家から日本の参戦を煽るような発言も出た。「捨て石」にした本土こそ、二度と沖縄戦を繰り返させない責任がある。今回の企画のキーワードは「対話」。戦争・暴力の反対は「対話」である。平和憲法を持ち、日中不戦の約束をしているにもかかわらず、なぜ戦争の準備ばかりしているのか。

### 与那覇恵子（共同代表）

「ノーモア沖縄戦・ぬちどう宝の会」のメンバーでもあり、会の目標は3つあって、1. 政治信条や政党支持の垣根を越えて「沖縄を戦場にさせない」との目的で県民の結集を呼びかける。2. 「台湾有事・尖閣有事」を口実とした対中戦争への反対を、米国、日本、台湾、中国の各政府や国内・国外の世論に訴える。3. 日米両政府の戦争計画遂行を許さず、平和な沖縄、日本、国際社会実現のため、県内、国内、国外へ連帯と活動を広げる。ですが、特に3番目の目標のための活動ができていません。今回の対話プロジェクトはこの目標を達成しようとするものであり、連携して頑張りたいと思います。平和外交をより戦争準備に余念が無い日本政府に代わり、今、私達市民が積極的に平和外交をしていかねばなりません。絶対に沖縄、日本、台湾、中国を戦争の犠牲にしないという一心で、同じく大国に翻弄されて戦場となる危機を抱える台湾と連携していけたらと思います。

### 我部政明（共同代表）

このプロジェクトは「戦争を起こさせない」と「対話」がキーワード。ウクライナ戦争は第二次世界大戦以後、はじめて国境を変えつつある戦争。誰もが望まない戦争が何年も続いた第1次世界大戦のことを考えれば、いかに戦争を回避するかが重要。ただちに「台湾有事」が起きるとは考えていない。つまりまだ選択できる時間があるということだ。

### 前泊博盛（共同代表）

今回の安倍元首相の国葬が日本の政治状況を象徴している。国民の過半数が反対しても国葬を強行する。しかも国会審議を経ず、内閣の閣議決定だけで税金を投入した国葬強行。国民世論の歯止めが利かない内閣の事実上「独裁、独断政治」というこの国の政治の実態が明らかになった。ロシアではプーチン大統領がロシア帝国復活を目指して勝手にウクライナとの戦争を始めた。思わぬ抵抗にあい戦争が長引く中で、国家総動員法的な徴兵も始まっている。強権的政治家の前で、ロシア国民ができるのは国外に逃げることだけだ。ロシアと同



じ構造が日本にもある。戦争を止めるには「端緒で抵抗せよ」とアジア・太平洋戦争の反省を踏まえ、政治学者の丸山真男は教訓を残した。昨年、1958年の台湾海峡危機で、米軍は沖縄から核攻撃すると中国を核威嚇していたことが朝日新聞の報道で明らかになった。攻撃には核報復で応ずると当時のソ連は中国をかばった。それでも米国は核攻撃を検討し「核攻撃すれば報復で沖縄と台湾は消えるがやむを得ない」との判断をしていたことも明らかになった。基地は米軍も自衛隊も住民を守らない。自衛隊先島配備でミサイル基地建設で沖縄は軍事攻撃の標的なる。「捨て石」とされた沖縄戦の再来すら想起させる。沖縄をアジアのウクライナに、沖縄をウクライナのドンバスにしてはならない。

神谷美由希

戦争で誰かが命を落とすことは間違っていると思います。沖縄県民の命も守りたいし、台湾にも友人がいますし台湾人の命も守りたい。戦争を回避するには、対話を重ねることが必要です。まずは市民から、お互いの違いを理解して、対立を乗り越えて、お互いにとって良いアイデアを創っていきましょう。そして中国や米国の市民とも対話していきましょう。私たちは同じ地球に住む子どもたちなのだから、敵対視するのではなく友好的な関係を築いた方が良いです。その方が楽しいです。皆さん、共に楽しみながら対話していきましょう。そしてクラウドファンディングのご協力もよろしくお願いします。

上里賢一

長年中国文学研究を行い、沖縄日中友好協会の支部長でもある。台湾にも中国にも友人がたくさんいる。最近、武漢で沖縄についてのシンポジウムが行われ、オンラインで参加した。中国の研究者たちの沖縄に寄せる熱い思いを感じた。かつて東アジアー中国、朝鮮、琉球、ベトナムなど一は儒教文化圏であった。沖縄はその中で約500年繁栄した。そこから学ぶことが多くある。

新川明

いまの状況を考えるとメディアの責任が大きい。かつてメディアに席を置いたものとして責任を感じる。いま直面している「台湾有事」が起きれば、沖縄は再び沖縄戦と同じになる。また八重山は真っ先に戦場になる。八重山は個人的には第二の故郷。一介の老人だが、対話プロジェクトの末席に加わらせていただいた。

高嶺朝一

「有事」になったら、出来ることは何もない。有事体制と言論統制は同時に進む。いったん有事になれば、こうした反対の声を上げることも出来なくなる。いまここで声を上げないならいつ上げるのか。

谷山博史

私たちは政治的な立場、世代、国籍の違いを超えた対話を目指していますが、対話のベースとして事実は事実として共有したうえで対話することが重要だと考えています。そのうえで対話の灯火を掲げる必要があります。私は世界各地の現場で対話を実践してきた立場からそのことを強く訴えようと思います。対話は継続することが大事です。対話が続けられていれば私たちにまだ希望はあります。ぜひ対話の取り組みに参加してください。そしてクラウドファンディングにもぜひ協力をお願いします。

## クラウドファンディングのお願い

本プロジェクトに必要な資金を集めるためにクラウドファンディングを始めます。15日(土)12:00 公開予定です。

下記の URL や QR コードから本プロジェクトのページにアクセスできます。3,000 円、5,000 円、10,000 円の支援のタイプがあり、それぞれのリターン（返礼品）をお送りします。

3,000 円の支援 支援者限定の活動報告とお礼の手紙

5,000 円の支援 プロジェクトオーナーから「台湾有事」関連の論考の定期送付プラス  
3,000 円の返礼品

10,000 円の支援 サブ企画の特別オンライン視聴 URL と 5,000 円の返礼品

クラウドファンディングの本プロジェクトページは頻繁に報告や情報が更新され、支援してくださった方はその都度連絡が受けられるようになります。ぜひ以下の URL か QR コードからページにアクセスしていただき、リターンのタイプを選んで「支援する」のボタンを押してください。また本プロジェクトのクラウドファンディングをお知り合いに紹介していただくことも私たちにとって大きな力になります。ぜひご協力をお願いします

対話から繋がる希望を信じて！「台湾有事」を起こさせない『沖縄対話プロジェクト』

<https://camp-fire.jp/projects/631509/preview?token=2ezvess3>



